



橋本治雜文集成

パンセⅡ



若者たちよ!

橋本治



橋本治雜文集成

パンセⅡ

若者たちよ!

橋本治

河出書房新社

橋本治雜文集成

パンセⅡ 若者たちよ！

一九九〇年二月一五日 初版発行
一九九〇年四月三日 再版発行

著者 橋本 治

装幀者 鈴木成一

発行者 清水 勝

発行所 株式会社 河出書房新社

東京都渋谷区千駄ヶ谷二―三二―二

電話 営業 〇三―四〇四―一二〇一
編集 〇三―四〇四―八六一一

振替口座(東京) 〇一―〇八〇二

印刷 三松堂印刷株式会社

製本 小泉製本株式会社

落丁・乱丁本はお取替えいたします

定価はカバー・帯に表示してあります

©1990 Printed in Japan

ISBN 4-309-60392-0

目次 CONTENTS

青年に与える言葉 7

長篇短篇エッセーサフリーマンなんか大ッ嫌エだ 12

サブカルチャーの不思議 20

文学じゃないとゴセンブ——太友克洋『GOOD WEATHER』36

マンガの古典化はありうるか 40

谷岡ヤスジは天才なんだもんね 43

生活なき時代の新聞漫画——植田まさし『コボちゃん』47

ワトリングで描くマンガ——ひさうちみちおの『人生の並木道』50

少女漫画のヒロインと

“内面の陥没”——美内すずえ『ガラスの仮面』の連載再開 53

少女マンガは存在する——マンガ文化のありか 56

おーいゆみこさんオシッコ——なんさんの四コマ漫画 59

子供になる 62

マイナーに、受ける 68

媚びる⁷²

当世豚に真珠考⁷⁵

橋本治のGOROGORO⁸⁴

題名をつけたくない———そう思われるのが正解だと思われるある事柄について⁹³

過去・現在・未来¹⁰⁷

橋本治スーパ―講演会

ぼくたちの近代史———十月十五日(日)午後二時から正味六時間¹¹³

全共闘について(代筆＝榎原玲奈)¹¹⁸

当国宗教戦争掌史———若者文化と宗教に関するあるムツカシイお話¹²¹

32の時にグリーンメンバー青春といわれてつけた題が———僕には青春がない¹²⁵

十九歳のなしくずし¹³²

ユーリへ¹⁴¹

僕だってRCは好きなんだぜエ¹⁴⁶

いわゆる若者文化とマンガ¹⁴⁸

思い通りにいかないコトは

ぜんぶ認めねえぞ俺ア

——または妄想としての現在 153

大体人間は昔つから大したことをなんか

言つてないんだから古典を読みなさい

169

明日のためにこか

175

お前が男のオバサンだ!!

180

嫌悪語

182

難しいのはプロであり続けることだ

184

集中カウセリングどうだ!! きみには思春期がない!

186

人とは違った読書のすすめ

204

今後のエンピツ・ハウサー

傾向と対策

——正しいシロートとなるために 206

自我の統合

210

解題『若者』つて所詮『若者』でしかないと思うな

228

橋本治雜文集成

パンセⅡ

若者たちよ!

青年に与える言葉



い
いつでも愚痴を

ろ
論より権威

は
ハツとしてグロテスク

に
にやりと笑えばスケベが見える

ほ
ホットケ・ドブス・プレス

へ
偏見を持たない偏見大偏見

と
隣の餓鬼はよく客喰う餓鬼だ

ち 父は地に落ちた

り 立派に見える大雑把

ぬ ぬけてるぼうやのシティマガジン

る 類は群をなす

を 老いては子が従わない

わ 「分った、分った」——だからちつとも分らない

か 可哀想なは自分でごさい

よ よせばいいのに若づくり

た 怠惰はくせになる

れ 連帯感仲がいいのか糸引き納豆

そ そうだよ、そうだよ分ったよ、あんた一人が犠牲者サ

つ 強い子よい子哀しい子

ね 寝る娘は堕ちる

な なういぎやる えぐいよる

ら らいおんははげている

む 娘16自己嫌悪

う うつとうしいから汗ばむ善意

ゐ 居留守をつかう自閉症

の のぞく親切 いじくる好意

お おじさんはね、おじんなんだよ

く 苦しい時の自己陶醉

や やさしい優しいインボはやさしい

ま まわりを見れば無反応 まわりが見れば無感動

け 謙遜は卑屈の旅の三里塚

ふ 不健康 楽しんでるのが玉にキズ

こ 恋をすると変になる

え 縁はいやなもの

て 天に唾する地に涙する

あ あすはバーになる

さ さいたまけんは とうきょうと

き 傷ついて また傷ついて傷つけて それで全部がダメになる

ゆ ゆめいく み はっぴい ゆめいび はっぴい

め めんどくさい それで手を抜くニヒリスト

みんなで一緒に村八分

し 朱に交わり方が悪ければムラになる

ゑ びす顔のサデイスト

ひ 百も承知 二百もうんざり

も もうオ いイクつ寝エるウとオニユーファミリイ~~~~~♪

せ 青春は、海に向かって「バカヤロオーツ!!」

す すっかり大人 中身はないわ

ん ……んと……………んとね——お前はバカか？

長篇短篇エッセー

サラリーマンなんか大ッ嫌エだデーキレ



第一回 私はなぜサラリーマンが嫌いか

私はサラリーマンが嫌いである。それ故に私はサラリーマンにならなかった。なったことがない。それは一体何故なにゆえなのか？ それは私が、プロ野球と酒が嫌いだからである。

私はプロ野球と酒が嫌いだった（今でもそれはあんまり変ってない）。そして、高校生の時の私の目に映ったサラリーマン像というのは「酒飲んでプロ野球の話をするもの」というのであったので、それで私はサラリーマンになんかなんないと決めたのである。

それだけでやめちゃうんだから、スゴイもんだというかバカだというか思いきりがいいというかよく分んないが、私はそれでやめちゃったのである。えらい。

お酒の話は次回ですので、今回は野球である。ホントいうと私のお友達はお酒飲んで野球見るのが好きな人だから（もいるから）こういうのを見られるとヤバイのだが、しかし彼はサラリーマンじゃないからいいだろう。私がなぜプロ野球が嫌いかを書いちゃう。

まず第一、プロ野球の選手はセクシーじゃない。頭良さそうじゃないし、愛嬌もない。そのクセなんか、人の言うこと素直に聞きそうな顔してる。私にとつて男がセクシーじゃないというのはこの三条件。私、こういう男で、しかも「男性的」という修飾語がつくような人嫌い——で、私が嫌いな男性像が、ある意味では、サラリーマンの模範的な男性像だから、従つてプロ野球の選手——それと同一化をはかる男——サラリーマン——嫌い、ということになる。

次。

野球はチームプレーである。ナインの協力が必要である、ということに表向きはなっているが、みんなの嘘だもん。というのは夏の甲子園を見れば分る。剛腕のピッチャーが一人いれば、キャッチャー以外の残りの7人、不要だもん。即ち、残りの7人はなんにもしてなくても、ただそのチームに所属してるってことだけで「チームワーク」なんていう精神的な満足感を口先だけで味わえちゃうからイヤ。これはほとんど会社である。極言すれば、野球というのは、守備についた時のピッチャー、攻撃の時の各自のバッティング、それだけなんだもん。

なんとなくトータルな気がするけど、よく見るといくらでも手拔きの余地があつて、いくらでも奇型化する余地があつたりするのなんて、不気味じゃん？

私にとってはそれが「会社」なのだ。こういうのを平気で肯定するからサラリーマンは嫌い。もうバレてんのよ。

第二回 私はなぜ酒飲みが嫌いか

前回に引き続いて、今回は私が酒飲みが嫌いな理由である。早川くんごめんね——トートツに出て来た「早川くん」というのは、ジュリーのデザインをやってる早川タケジくんである。この人、酒が好きでプロ野球が好きなの。俺がこんなこと書いてるの見たら怒るだろうなア……、だからごめん。これは「一般論」だから。

しかし恐ろしい一般論である。

私は酒が嫌いである。なぜ嫌いかというと、私は酒が飲めないからである。すぐ頭痛くなつてゲロ吐いちゃうくらい、酒と私は合わないのである。

それではどうして私と酒は合わないのでしょうか？ 理由は簡単である。それは私がおしゃべりだからである。

男は酒を飲むと雄弁になる。それは、アルコールというものが、男の抑圧を解くからである。

男が酒を飲むということは、だからおしゃべりになりたいということ、だとすると元々おしゃべりな私はなんなのだという事になって、要するに私は、素面しらふで酔っているのである。人間、素面で